

まいぶん fan

向日市の埋蔵文化財の最新情報を提供します。

Archaeological Information of Muko-city, Kyoto-pref. Japan

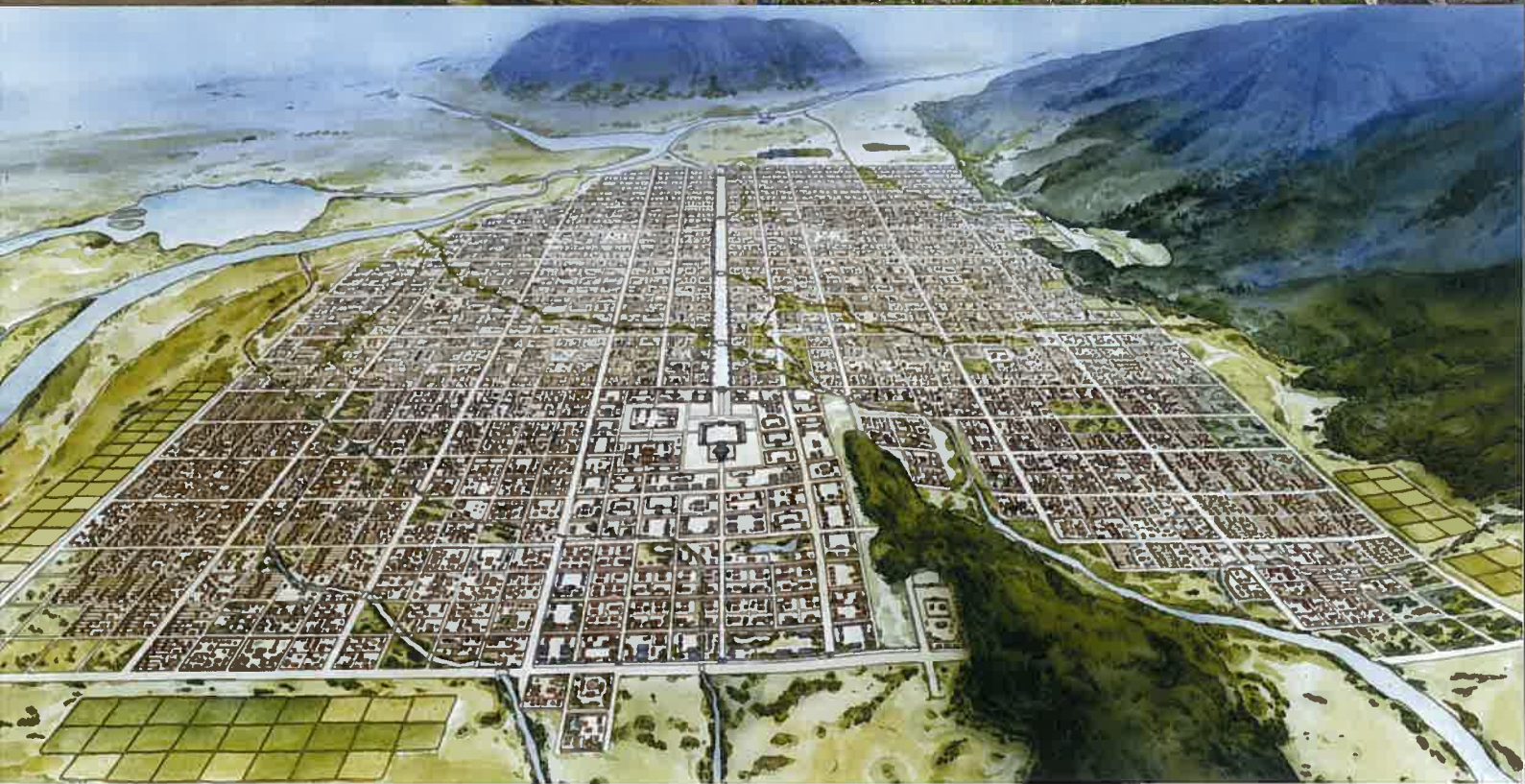
特集 長岡京の条坊道路



左京第611次調査出土荷札木簡



近年、条坊遺構の確認がすすむ長岡京左京域の景観と条坊復原図(北から)

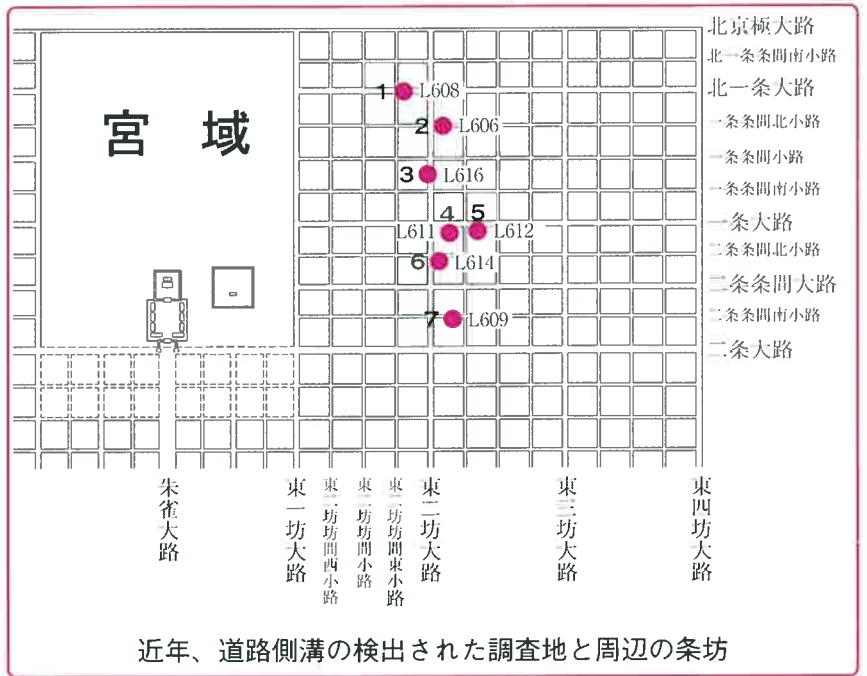


長岡京左京域で近年検出された条坊遺構

～都の道路側溝（条坊遺構）からわかること～

【条坊制】 都造りには、天皇の居所や政治・儀式をおこなう施設、人民が集住する空間など、首都である威容を整えるための都市計画が必要とされます。都の内部は碁盤の目のように整然とした道路網が張りめぐらされています。中国の都にならって、東西は条路、南北には坊路をもうけた条坊制が採用されています。

【長岡京の条坊】 長岡京の条坊計画は、発掘調査で道路跡を確認しながら検討が進められています。道路の両端には雨水を流すために排水溝がもうけられています。この遺構を手がかりに道路の規模を確定し、大路と小路の配置パターンをもとに都全体の計画図が復原されてきました。60年以上を費やし2400回にせまる発掘をしてもな



近年、道路側溝の検出された調査地と周辺の条坊

お完成には至っていません。長岡京の都市計画では、京内の宅地をできるだけ同じ大きさに揃えるように意識されていたことがわかっています。この理念はその後にも引き継がれ、平安京で完備されるのです。

【都の排水計画】 道路側溝の規模は、北一条大路のように南側溝が北側溝の2倍以上の規模をもつ場合が珍しくありません。長岡京は起伏に富んだ地形の上に造られています。碁盤の目に配された道路側溝には、周辺の役所や宅地からの雨水が流れ込んできます。低い位置にある側溝には多くの雨水が集中するため、より大きな側溝が必要となります。交差点では路面上を突き抜ける形で溝を通す場合もあり、橋をかけて道路の往来に支障が出ないように工夫をこらしていました。また、場所によっては雨水を集めると同時に分散させる機能を備えることも必要です。道路側溝にみられる規模の違いは、土地条件や周辺環境などにに基づき、現実に即した対応がおこなわれていたことを示しています。

【側溝出土の遺物】 道路側溝は都が移されるとゴミが捨てられるようになり、やがて埋め戻されます。側溝内からは土器や木製品（箸や皿など）、金属製品（鍵や鋏、銭貨など）などさまざまな遺物が出土します。人形や墨書人面土器もあり、周辺で祭祀がおこなわれていたことがわかります。また、公文書である木簡からは役所での仕事内容がうかがえ、土器や木製品、金属製品、桃などの種実からは都で暮らしていた人々の想いや生活を知ることができます。このような多彩な遺物は、都に住んでいた人々のいづきを感じさせてくれます。

1 北一条大路 南側溝（左）と北側溝（右）では、規模が異なります。（左京第608次 森本町竹園子 西から）



2 一条条間北小路 南北両側溝は同じ規模とみられます。道路の路面幅は約9mです。

左：南側溝 右一条条間北小路全景（左京第605次 森本町佃 東から）



4 一条大路 幅の広い壕のような南側溝がもうけられています。（左京第611次 鶏冠井町十相 北から）



5 一条大路 東隣の町内でも同様な南側溝が確認されています。（左京第612次 鶏冠井町十相 北から）



6 東二坊大路 東側溝は底に近い深さまで削られています。（左京第614次 鶏冠井町馬司 北から）



7 二条条間南小路 南北両側溝は、同じ規模でもうけられています。（左京第609次 鶏冠井町石橋 北から）



乙訓古墳群出現前夜—五塚原古墳誕生への道—

王権中枢部から離れて、最初に前方後円墳がつくられた乙訓。その前史にあたる弥生時代の地域社会の動きから古墳誕生への道のりをたどります。

石製武器の出現状況、青銅器や鉄器の生産動向、集落の土器からみた他地域との交流、墳墓祭祀に使われた土器の構成、銅鏡の保有状況、首長の出現を示す建物の様相、古墳の成立と社会の変化について、乙訓地域とその周辺の遺跡から出土した弥生時代の基準資料を一堂に会して考えます。



五塚原古墳の埋葬施設

令和2年10月3日(土)～11月29日(日)

向日市文化資料館 入館無料

阪急東向日駅より徒歩8分・JR向日町駅より徒歩約15分

休館日 月曜日、祝日の翌日、資料整理日

10/5(月) 12(月) 19(月) 26(月) 11/2(月) 4(水) 9(月) 16(月) 24(火)

開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

[主催] 公益財団法人向日市埋蔵文化財センター 向日市教育委員会

記念講演会

前方後円墳出現前夜の列島社会

北條 芳隆氏 (東海大学文学部教授)

日時 11月7日(土) 午後2時～4時

会場 向日市文化資料館2階研修室

定員 抽選で40名 参加無料 ※事前申込制

★申し込み方法☆

◎往復はがき(一人一枚)に住所、氏名、電話番号、手話通訳・要約筆記を希望する場合はその旨を記入し、当センターまでお申し込みください。

◎締め切り 10月12日(月) 当日消印有効



【講師プロフィール】

大阪大学大学院博士後期課程単位取得満期退学
徳島大学埋蔵文化財調査室を経て、現職。

【古墳時代像を見なおす】(共著、青木書店2000)、

【古墳の方位と太陽】(同成社2017)などの著作

がある。

◆ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、中止する場合があります。

◆ 来場時の検温、マスクの着用、手指の消毒など、新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力をお願いいたします。

編集・発行

公益財団法人向日市埋蔵文化財センター

〒617-0004 京都府向日市鶏冠井町上古23

TEL: 075-931-3841 FAX: 075-931-4004

<http://www.mukoumaibun.or.jp>

令和2(2020)年9月4日